

第 39 回土木計画学研究発表会（春大会）：2009. 6. 13～14（徳島大学）

企画論文部門 セッション討議内容の記録

セッション名：沈黙の交通計画論	
日付： 6月 14日（日）曜日，セッション時間： 10：30 ～ 11：40	
オーガナイザー・司会者名（所属）：久保田尚（埼玉大学） 藤井聡（京都大学）	
討議内容	<p>セッション全体：「沈黙」というテーマの下で、調査への未回答、あるいは大衆性との議論など幅広いトピックの発表が行われた。5名の発表者に加えて、行政学の専門家である埼玉大学の松本正夫教授をゲストに迎えて本セッションへのコメントをいただいた。</p>
	<p>（発表番号） 発表者名（所属）：(282) 小嶋文（埼玉大学）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調査の分類方法として、調査主題の一般性、限定性、回答者の意思決定への関わりの有無を用いているが、これはそれぞれ回答者の一票の重み、あるいは調査自体の重み関係しているのではないか。また、その場合回答者の「関わりの度合い」はどのように定義されるのか？</li> </ul>
	<p>（発表番号） 発表者名（所属）：(283) 高橋勝美((財)計量計画研究所)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調査への回答率が下がるにつれて、「補正」が「加工」になってしまう恐れがある。</li> <li>・調査は選挙とは違うので、回答しない人の所に押し掛けて行くことができる。このように地道に回答率をあげる努力が必要ではないか。</li> <li>・税金を使って行う調査であるので、調査の質とコストを両立することが大事（連名：西野）</li> </ul>
	<p>（発表番号） 発表者名（所属）：(284) 張峻屹（広島大学大学院）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Web 調査の場合、調査票のフォームを含めて、事前にも事後的にも、調査する側が回答をコントロールでき過ぎるのではないか？</li> </ul>
	<p>（発表番号） 発表者名（所属）：(285) 羽鳥剛史（東京工業大学）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メンバーに大衆的な人が入ると沈黙や批判の応酬となるという結果が得られているが、大衆的な人への対処の方法や位置づけをどうするかについては、今後議論・検討が必要な問題ではないか。</li> </ul>
	<p>（発表番号） 発表者名（所属）：(286) 藤井聡（京都大学）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多数決を否定してしまうと、暴力的な時代の意思決定に戻ってしまうおそれがあるのではないか？</li> <li>・強調したいことは、今後の交通計画においては、死者あるいはこれから生まれてくる人の考えまで想像する、鋭敏な想像力と精神力が必要ということ。（藤井）</li> </ul>

※発表件数に応じて適宜追加してください。